

## 大河内川砂防堰堤

大河内川は日野川の源流で笹ヶ峰 (1284m)が源です。大河内集落は、東の源平谷山 (949m)、西の赤谷山 (801m)に挟まれた山村でした。南条村史に「この村を知る者なし、広野に木椀流れ出るを見て、山中に人家あるのではとたずね、岩屋、榎谷、大河内の三村を発見した。発見当時、風俗当世之類にあらず、木地師集落」と書かれています。明治11年21戸121人が木地師、下駄の歯、薪炭業を営み生活していました。昭和18年頃やっと道路が造られ自動車が入りました。それまでは林産物は大河内川を利用し、テッポウで今庄へ運んでいました。ダムができるまではアユやサクラマスが遡上してきました。昭和38年豪雪災害を契機に昭和41年(1966)離村し無住となりました。明治28年の豪雨災害が発生し、明治36年頃の福井県砂防全図に砂防指定されています。



美しい自然石の野面積み砂防堰堤 (大河内川砂防上堰堤)

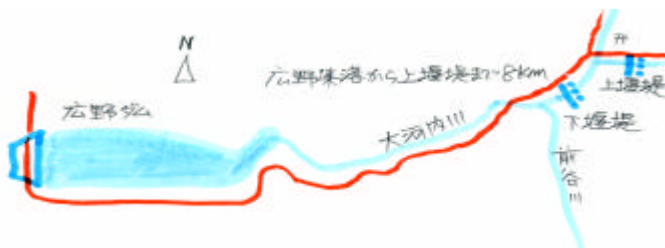
2006年6月21日撮影  
Y.TANAKA



(大河内川砂防下堰堤)



(水力発電施設の跡)



2006年6月22日  
日野川流域交流会 田中保士